

**『2026 年版 まんがでわかる 保育士らくらく要点マスター』 購入者特典
保育士実技試験用「3びきのこぶた」「ももたろう」台本**

<注意事項>

- ・『2026 年版 まんがでわかる 保育士らくらく要点マスター』の P 323～もご参照ください。
- ・この台本は 3 歳児でもわかりやすい表現にして、適切な速さで話して 3 分に収まるようにしています。
- ・お話を聴いている子ども達を楽しませる気持ちで、受験者自身も楽しくお話ができるようにしましょう。
- ・ナレーションとセリフの声や表現は、子ども達に違いがわかるようにはっきりと変えましょう。
- ・お話を聴いている子ども達は、15 人程度であり、複数の子ども達をイメージした話し方を心がけましょう。
- ・場面が変わるところは、しっかりと「間」を取りましょう。
- ・お話の最中は、試験官に視線を送る必要はありません。子ども達一人一人に目線を送るようにしましょう。
- ・評価はお話の部分のみでされます。お話の前後における子ども達への声掛けなどは一切必要はありません。
- ・身ぶり手ぶりは、適度に入れましょう。ただし、入れ過ぎると素話ではなくお芝居になってしまうので注意してください。
- ・本紙の一部または全部を無断で複製、転載することを禁じます。

台 本	ポイント
3びきのこぶた むかしあるところに、3びきのこぶたがいました。 ある日、お母さんが3びきに言いました。 「お前たちはもう大きくなったのだから、自分の家を建てて暮らなさい」 そこで3びきは自分の家をつくることにしました。 一番大きなおおぶたちゃんは、ふわふわのワラのお家をつくりました。 二番目のちゅうぶたちゃんは、トントントンと木のお家をつくりました。 三番目のちいぶたちゃんは、かたくて丈夫なレンガのお家をつくりました。 さて、そんなある日、お腹を空かせたオオカミが、山からやってきました。 「おや、このわらの家の中からおいしそうなこぶたのにおいがするぞ」	話の出だしは、落ちついたトーンで話し始めます。 お母さんのセリフは、お話を聴いている子どもたちが自分に話しているような感覚になるよう、やさしく子どもたちに向かって語りかけましょう。 少し怖そうな感じでオオカミのセリフを言いましょう。以下（怖）

オオカミは、言いました。 「おい、こぶた。このドアを開けろ！」 「いやだよ～」 「それならこんな家、吹き飛ばしてやる。フッフのフー！」 オオカミは、あっという間に、わらの家を吹き飛ばしてしまいました。 おおぶたちゃんは、急いで木の家に逃げ込みました。 そこへまたオオカミがやってきて、 「おいこぶた！このドアを開けろ！」 「いやだよ！開けるもんか」 「そうか、それなら…フッフのフー！」 オオカミは、木の家も吹き飛ばしてしまったのです。 2ひきは、慌ててレンガの家に逃げ込みました。 そこへ追いかけてきたオオカミは言いました。 「やい、こぶた！ このドアを開けろ」 「いやだったらいやだ！」 「それならこの家も吹き飛ばしてやる」 フッフのフー！ 「アレ??」 オオカミが何度息を吹きかけても、レンガの家はびくともしません。 怒ったオオカミは、えんとつから中に入ることにしました。 家の中ではこぶたたちが、えんとつの下に、 熱～いお湯の入った大きなお鍋をおいていました。 そうとも知らないオオカミは、えんとつから入ってきて…	(怖) こぶたのセリフは、少しおびえたように表現しましょう。 「フッフのフー！」は、お話全体の中で最も力強く大きな声で。以下(強) 少し早めのテンポで（急いでいる感じで）語りましょう。 (怖) (強) さらに慌てている感じで、速めのテンポで語りましょう。 (怖) (強) オオカミの「おかしいな？」という気持ちを表すような表情で言いましょう。 大きなお鍋を～のところで、両腕で抱えるように輪をつくり、大きなお鍋を表現する身振りをいれてもいいですね。
--	---

ドボーン！ 「あちちちち」 おしりにやけどをしたオオカミは、山へ逃げていきました。 それからというもの、3びきは、いつまでも仲よく暮らしましたとき。 （おしまい）	「ドボーン」と「あちちちち」は、大きな声で表現します。 出だしのトーンと同じく、穏やかな語りで終わりましょう。 時間が余りそうな場合は、ゆっくりと「おしまい」を子どもたちに向かって言いましょう。
--	--

台 本	ポイント
ももたろう むかしあるところに おじいさんとおばあさんが仲良くくらしていました。 ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、大きな桃が どんぶらこ～どんぶらこ～ と流れてきました。 おばあさんは、おじいさんと食べようと、その桃を家に持って帰りました。 桃を切ろうとしたそのとたん 「ぱかっ」と桃が割れて 中から元気のよい男の子がうまれました。 おじいさんとおばあさんは、その子に「ももたろう」と名前をつけました。 ごはんをたくさん食べて、大きく強くなったももたろうは、ある日言いました。 「ぼくは、これから鬼ヶ島に行って、村の人を困らせている悪い鬼をやっつけてきます。力がいっぱい出るように、美味しいきびだんごを作ってください」。 おじいさんとおばあさんは、さっそく、たくさんのきびだんごを作って、ももたろうに持たせてやりました。	話の出だしは、落ちついたトーンで話し始めます。 どんぶらこ～のところは、リズムをつけて言いましょう。 「ぱかっ」と割れる音を強調して言いましょう。 「ももたろう」という名前を、はっきりと丁寧に伝えてください。 元気のいい男の子をイメージしてセリフを言いましょう。

さあ鬼ヶ島へ出発です！ ももたろうが、しばらく歩いて行くと、どこからか、イヌとサルと（鳥の）キジが、やってきていました。 「ももたろうさん おこしにつけたきびだんご、私たちにもくださいな」 「これは日本一のきびだんご これを食べて、一緒に悪い鬼をやっつけに行こう」 こうして、イヌとサルとキジも、ももたろうと一緒に、鬼ヶ島に行くことになりました。 やっと鬼ヶ島につくと、たくさんの鬼たちが集まっているところでした。 鬼は、ももたろうたちを見ると 「なんだおまえたちは！ よおし 食べてやる」 と怒鳴りました。 その時です。イヌがワンワンと鬼の足にかみつ、サルがキャッキヤと顔をひっかき、キジがケーンケーンとおしりをつつつき、ももたろうが「えいやー」と鬼を投げ飛ばしてしまったのです。 すると鬼たちは「イタイよ～」と泣きながら逃げて行ってしまいました。 ももたろうは、鬼が置いていった宝物を家に持って帰り、とてもお金持ちになりました。それからというもの、おじいさんおばあさんと一緒に、いつまでも幸せに暮らしたとさ。 （おしまい）	元気よく言いましょう。 場面が変わるので間を取りましょう。以下（間）。 3 びきの動物をしっかりと想像できるように、「イヌ」「サル」「キジ」を、はっきり区切って伝えるようにしましょう。 3 歳児ではわかりづらいので、「鳥の」を入れてもよいでしょう。 （間） 怖そうな鬼のイメージで、大きめの声で言いましょう。（強） 勢いをつけるために、早めのテンポで、強めに語りましょう。 「イタイよ～」のセリフは、鬼の声のまま、泣き出しそうに表現しましょう。 話の出だしと同じように、落ちついたトーンで終わりましょう。 時間が余りそうな場合は、ゆっくりと「おしまい」を子どもたちに向かって言いましょう。
--	---